

わいせつ防ぐ自己診断

教員向けチェックシート

児童・生徒へのわいせつ行為で処分される教員が増加している問題を受け、性行動について逸脱した考えを持っていないかを教員自身が点検できるチェックシートを、奈良大の今井由樹子准教授（犯罪心理学）らが作成した。「自分の傾向を客観的にチェックすることで、自制につなげられる」といい、全国の教育委員会



今井准教授

許すな わいせつ教員

「職場に相談できる人がいない」「児童・生徒への指導、励まし、ねぎらいのため、頭、肩、腕などに触れることがある」「自分の携帯で児童・生徒や保護者とやりとりすることがある」といった約30の質問に選択式で回答する形式。採点表と照合して、危険度が高い「赤信号」、注意が必要

など活用を呼びかけている。要な「黄信号」になっ

ていないか把握できる。今井准教授はスクールカウンセラーや臨床心理士として、非行や被害を受けた子どもの問題に関わってきた。2014年から中部地方の教委の依頼を受け、わいせつ行為の加害者となった教員への聞き取り調査をした。職場や家庭で孤立するなどストレスを抱えているなど児童・生徒の体につ

こうした分析に基づいてチェックシートを試作。17年に中部地方2県の小中学校・特別支援学校に勤務する教員計875人に回答してもらい、傾向を確かめた。その後、加害教員13人も回答してもらった。調査数が大きく異なり、統計上そのまま比較はできないが、特定の子と長時間にわたって個別面談をするなどの割合が著しく高いことなどが分かった。

複数の教委から導入に向けた相談があるといい、今井准教授は「被害を防ぐためのツールとして有効だと考えている。赤信号の場合には信頼できる人や臨床心理士などの専門家に相談してほしい」と話している。

チェックシートの質問の例

- 管理職や上司のことを嫌いでしかたがない
- 職場には相談できる人がいない
- 大人として、子どもに性的手ほどきをするのは悪くない気がする
- 性的誘いをはっきり断らないのは、イエスを意味する
- 自分の携帯電話で、児童・生徒や保護者と、電話やメールやSNSなどでやりとりをすることがある
- 特定の児童・生徒との一対一の個別面談による相談や指導が、複数回または長時間に及ぶことがある
- 指導のためには、身体に触れることが、時には必要ながある
- 児童・生徒への指導、励まし、ねぎらいのために頭、肩、腕などの身体に触れることがある

※回答は「よく当てはまる」「少し当てはまる」「あまり当てはまらない」「まったく当てはまらない」から選ぶ(今井准教授らが作成)

教委で活用広がる

文部科学省の調査によると、わいせつ、セクハラ行為で処分を受けた公立学校の教員は増加傾向が続き、2018年度、過去最多の282人に上った。予防のため、チェックシートを活用する動きは広がっている。

長野、長崎の両県教育委員会は、NPO法人「性犯

罪加害者の処遇制度を考える会」(東京)が作成したチェックシートを導入し、公立学校の全教職員に配布し、自己の内面の振り返りに利用してもらっている。

長野県教委では導入した17年度に処分件数が前年度の7件から1件に減少。18年度は2件、19年度も3件

白鵬・鶴竜に「注意」決議

横審 休場「責任果たしてない」

日本相撲協会の諮問機関である横綱審議委員会(横審)矢野弘典委員長は23日、両国国技館で定例会合を開き、ともに11月場所を全休し、3場所連続休場となった白鵬関(35)と鶴竜関(35)の両横綱に対し、横審の内規に基づく「注意」を決議した。横審は成績不振や休場の多い横綱に対して「激励・注意・引退勧告」を決議できると内規で定めており、2番目に重い「注意」を決議したのは初めて。両横綱はともに直近12場所中、8場所を休場。この間、白鵬関は3度、鶴竜関は1度優勝したものの、記者会見した矢野委員長は「結果は別として、休みが

中村哲さん「ずっと心に」

福井市教委も10月、児童・生徒や同僚への接し方を問う独自のチェックシートを子どもと関わる全教職員に配布。署名して提出させた。